
卵ショック～僕のショートショート集～

マードック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

卵シヨック〜僕のシヨートシヨート集〜

【Nコード】

N9039B

【作者名】

マードック

【あらすじ】

シヨートシヨート集です。騙されたと思って全部見て下さいm（

〜m

卵ショック

20XX年：世界は深刻な卵不足、卵ショックに見舞われた。

貧乏大学生Tは毎日卵がけご飯で生き延びていたので卵の不足はTの生存危機につながった。

「やべえよ！卵がなくなったら俺死んじゃうよ。もうこうなったら人工で卵を作る研究をするしかない！」

彼は食物遺伝子を研究する学部に入っていて、その教授はよぼよぼのご老人だったため簡単に大学の研究所を自由に使う事が出来た。「絶対に人工卵を作り出さなくては俺は飢え死にしよう。大丈夫、きっと出来るはずだ！」

男は3日間ろくな睡眠も取らずに研究続けた。そしてついに研究は成功した。人工卵が出来たのだ。

「よしっ。遂に完成したぞ。味も本当の卵と全く変わらない。これで俺の命もなんとか保てるぞ」

翌日、男は研究結果を公開しその素晴らしい発明はまたたく間に世界中に広がり卵を使う何千万もの飲食店が購入を申し込んできた。特許を取得した男は相当の金持ちになった。

一年後男はふと気付いた。

「あ、俺あの研究以来卵かけご飯は食べてないな」

end

異次元への移動

「…ここはどこだ？真っ暗じゃないか。おーいおーい誰かいらないか！返事してくれー」

…返事は返ってこない。男は今うつ伏せになっていて、なにか狭い空間に挟まれている。

「なんで俺はこんな所にいるんだ？俺はこれまでなにをしてたんだろうか？……んーだめだ思い出せない」

…男は酒を飲みすぎたのかこの変な空間に来る前の記憶が全くない。

「まずこの寝返りも出来ない身動きが取れない状況を抜け出さないとな……」

…男はちよつと体を横に動かしたら簡単にその挟まれている所から抜け出せた

「はあ良かった、これでなんとか身動きは自由に取れる。…それにしてもなんだこの奇妙な空間は。ちよつと怖いけどこのままじっとしてるわけにもいかないだろう」

男はあたりを探り始めた。携帯の電池も切れていて光がないためはつきりは分からないが、軟らかいクッションのようなものとその上にある窓のようなものを発見した。

「なんだこれはベッドか？ベッドにしては横幅が小さすぎる。ん？でもこの上に丸い輪っかがいっぱいについている。あ、そうかこれはきつとカーテンレールだな。本来ここにカーテンがかかっているこの細長いベッドを覆っているのだろう。」

……と男はだんだんその空間の様子が付かめてきた。だがまだ自分

が置かれている状況は理解出来ていない。「それにしてもなんで俺はここにいるのだろうか。異次元にでも迷い込んだ気分だ。前の方にはドアがある。あのドアを開ければ見た事もない生物がいるかもしれない。今からなにか武器などを作って置いたほうが良いだろう」

男はもっていたハサミでベッドの様な物の表面を切り、怪我をしたときのためのガーゼになるようにした。

またその上にあるガラスを怪我をしないように慎重に割り武器を作った。

また、酸素が薄くなるとイケないと思い、そこら中のガラスは全部割り、空気が通るようにした。

「…ふう…これでいろんな武器も出来たし風もとおり涼しくなってきた。こうしてみるとアドベンチャーゲームの主人公になったみたいだ。…おっと、そんな呑気な事いつてる暇ではない。明日には見た事もない生物が現れるかもしれないのだ。しかし真っ暗な所で戦うのは分が悪い。異次元でも朝と夜くらいあるんじゃないか？明日になったら夜が開けるかもしれない。今日の所はこの細長いベッドで寝よう。」

男は念のために武器を持ちながら寝る事にした。

（翌日）

男は起きたがなにかの足音に気付いた。

「…なにか足音が聞こえる。異次元の生物かもしれない…まともに戦ったら勝てないかもしれない。死んだフリをして襲いかかるしかない。」

足音はこくこくと近付いてきた…そして男の前で止まった。

「お客さん、お客さん、大丈夫ですか？」

「おらっくらえ！」

男はその生物の肩の部分にブスリとガラスをさした。その生物は倒れた。

「どうだまいったか！」

「な、なにするんですかいきなり！私は駅員です！怪しいものではありません！」 「……へ？」

「ここは千葉駅の電車庫ですよ！私は朝の電車内チェックをしていただけです。そしたらあなたが寝ていたから声をおかけしたのですよ！」

……男は今すべてを理解した。自分は前日大量に酒を飲み、寝過ごしてしまった事と、自分が挟まれていたのは異次元ではなく座席の下だった事を。

JRの巡回ミスによる事件だったため恨まれこそしなかったが、駅員の肩は思ったより重症で、ある程度の治療を要した。それに窓を全部割り座席の布を切りまくってしまった。

そう…これから男は恐ろしい生物ではなく恐ろしい賠償金と戦っていかなくてはいけないのである。

願い事

とあるペンキ屋を経営してるK氏は自分の願い事が必ず叶うことに喜びをえていた。叶うといっても、寝る前に念じた願い事がその夜だけ叶う。どんな願い事をしてそれが叶っても次の日は普通の一日が始まる訳だ。でも一時的な物とはいえ願いが叶うのは嬉しい

「昨日はステーキをたべたいと願ったら見事ステーキがたくさん出てきて、たらふく食べた。今日はなにを食べようか。いや食べ物じゃなくてもいい、女を呼んでもいい、好きな動物と遊ぶのもいいかもしれない。」

このように毎日の夜を楽しみにしていたK氏だが、ある日悪徳業者に目をつけられ、店舗改装のため10年間コツコツ貯めていた貯金を全て失った。もうK氏は絶望の淵に立たされていた。

「俺の10年間はなんだったんだ。もうなにもする気がしない。私は全てを失った。」

ずっとメソメソ泣いていたK氏はふと疑問をもった。

「あの詐欺師を殺したいという願ったらどうなるのだろうか？やはり夜だけ願いは叶うのだろうか？」

もう捕まってもなんでもいいと思っていたK氏はその夜その願いを念じた。

翌朝：

「フッフ、昨日はものすごい快感だった。あの詐欺師のみじめな顔は忘れられない。あんな事までしたのに俺は殺人犯でもなんでもない。最高だ」

：だかし次の日は普通に始まる。実際は詐欺師も生きてるし金もない。結局なにも希望がないK氏はやがて死にたいと感じるようになってきた。

「俺はもう生きてる資格なんかない。今日の夜は自殺を願おう。」
……そしてK氏はその夜、自分の死を念じ続けた……

…3日後…

「今朝、行方不明になっていた老舗ペンキ屋のK氏が自宅でなくなっているのが発見されました。自殺の可能性が高い模様です。K氏は以前からシンナーを服用しており……」

秋葉系新ビジネス

その男、Nは近付いてきた。

「そのフィギュアすごいですよねー萌えますよね」

「そっそうですよねっ。もう一時間もみとれちゃってるんです」

「ははは、かなりはまってしまいましたね。ただみとれてないで買えばいいじゃないですか。どうして買わないのですか？」

「それが…お金がなくて…このフィギュア10万もするんです。買えるわけありません…」

「そうなんですか……あ、私がお金貸しましょうか？ 1.5%だけ利子をつけてくれれば一年後くらいに返していただいても結構ですよ。いや、汚い詐偽などではありませんよ、このフィギュアのよさが分かる人にあえて本当に嬉しいんです。だから協力させて下さい。」

「…ほ、本当ですか？ありがとうございます。本当にありがとうございます。ではお言葉に甘えさせていただきます。今度の給料日で必ず返しますので。」

「いやいや焦らないで大丈夫です。このフィギュアを好きな人に悪い人はいませんからね。」

…このようにしてNはまた契約を取り決めた。

「よし、今日は結構契約を取り決めたぞ。秋葉系の人は誠実だし収入のいい仕事についている。大体言った数字より多めのお金と菓子を与える。確実な収入が見込めるという訳だ。」

Nのビジネスはより発展し大金持ちになっているはずだった……

〱 一年後 〱

Nはいつものように秋葉原にいた。そこに一人の紳士が近付いてきた。

「ずっとそのフィギュアにみとれてるようですね？ 実は私も好きなんです。でもどうして買わないのですか？」

「ははは。君、そのビジネスは私も昔やっていたよ。だが見ての通りフィギュアにはまってしまった。もうけた金は全てフィギュアに使ってしまったよ。君もすぐにここから離れた方がいい」

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9039b/>

卵ショック～僕のショートショート集～

2010年10月11日23時41分発行